

アジア科学技術フォーラム  
声明（仮訳）  
（2007年10月5日、東京）

「アジア科学技術フォーラム」は2005年から2007年の3カ年に渡り、「アジアの持続的発展に向けた科学技術の挑戦」を全体テーマとして開催された。本フォーラムでは「アジアが抱える様々な地域共通の社会的課題の科学技術による解決」及び「アジアの躍進を将来ともに支える域内の科学技術レベルの向上（サイエンス・パワー・アジアの形成）」を目標に、アジア各国の政治家や研究者が活発な議論・意見交換を行った。

アジアにおける急激な人口増加や工業化に伴う環境・エネルギー問題、地震・津波・洪水等の自然災害、そして鳥インフルエンザやSARS等の感染症問題など、アジアの地域共通課題は近年ますます顕在化している。こうした現状を重くとらえ、本フォーラムは科学技術政策、環境・エネルギー問題、自然災害対策、感染症対策の4つの分科会に分かれ、それぞれの分野における一流の専門家が今後のアジア諸国間の連携について議論し、主に以下の通りの提言を行った。

1. 本フォーラムを通じて獲得した認識をそれぞれの国における科学技術政策に反映させるべく努力を行う。また、この目的のために、本フォーラムを通じて培われたネットワークを積極的に利用し、情報交換を行うとともにそのいっそうの発展に努める。
2. 今後も科学技術政策研究者の相互交流を行うために、本フォーラムのような枠組みはぜひとも必要である。本フォーラムで議論された「持続的発展」に引き続き、今後は発展を牽引する「イノベーション政策」について取り上げ、継続的な議論を行いながらアジア諸国の共通認識を醸造する場が必要である。
3. 「持続的発展」の最大の障害である環境・エネルギー問題について、アジア各国が問題意識を共有し、科学技術によって解決していくことが必要である。そのために研究者及び科学技術政策関係者が意見交換を継続的に行うとともに、アジア諸国間の戦略的な多国間共同研究とその成果の蓄積・普及、関連分野の人材育成を具体的に推進する機構の構築につき真剣な検討が望まれる。
4. 防災に携わる専門家間における自然災害対策に係わる知識や具体的手法の共有はきわめて重要であり、災害やリスクに関する情報データベース・ネットワークを構築すべく努力を行う。また、アジアの途上国における被災者の経済的復旧を支援するために重要な意味を持つであろうマイクロ・インシュランスは、単に概念にとどまらず、民

間を巻き込んだパイロット・プロジェクトを早急に発足させるべく真剣な検討が望まれる。

5. 感染症研究においては海外研究拠点ネットワークが重要であり、研究拠点受入国との長期的な信頼関係を構築することによって初めて成果を挙げうる。より長期に渡る政策的展望にたったアプローチのさらなる拡大が望まれる。
6. アジア各国の感染症研究者が定期的に会合を開き、意見交換や情報共有を行う場が必要である。アジアにおいてより強固な感染症研究のネットワークが構築されるべく、努力を行う。また、ネットワークを持続させるためには企業・公的機関等の関与及び資金提供が不可欠であるので、今後、企業等の理解を得るべく努力を行う。

フォーラム参加者一同は、本フォーラムを通じて培われたネットワークをさらに発展させ、関係機関同士の協力をさらに深化させていく必要があるとの確固たる共有された認識の下、提言の実現に向けて取り組んでいく。